

タイトル： 朝礼での活動を通じ、従業員に危機意識浸透



地震

ポイント

- BCP策定は、会社/社員/取引先の生命と財産を守るという思いとマッチ
- 朝礼で「KY活動（危険予知活動）」と「ええじゃないか運動」を実施。この延長線上としてBCPを捉え、従業員への意識浸透も円滑に進んだ

BCP策定のきっかけ

- 立地する大分県が南海トラフ地震の影響が危惧される地域であり、当社の清松社長が、何か対策を行う必要性を感じていたところ、BCP策定のチラシを見つけたのがきっかけ。BCP策定は、会社・社員・取引先の生命と財産を守りたいという社長の思いとマッチしていた。

BCP策定時の課題と解決方法

- BCPは、2019年7月に策定。社長は大分県鉄構工業会の理事長でもある。当社の関係する建設業界ではKY活動（危険予知活動）という、職場や作業の状況のなかに潜む危険要因を取り除こうとする活動を日頃から行っている。当社では、朝礼を毎朝実施して、朝礼の中でKY活動として、各グループで話し合い、起こりうる危険を想定、次にどのようにすれば危険を回避出来るか考え、それぞれ防止対策を立てている。また「ええじゃないか運動」と称し、朝礼で、社員が昨日のミスや失敗を発表し、それに対して社長や社員たちが「ええじゃないか」と言って失敗を咎めない活動も実施している。失敗が許される環境でなければ、人は問題が表面化しない限り、ギリギリまで報告しようとしめない。ですから、いかに前もって言うてもらうかが大切であると思う。BCPは、これら「KY活動」と「ええじゃないか運動」の延長線上にあるもので、BCP策定に当たっては、特に難しいと思うようなことはなく、その後の従業員への意識の浸透も容易だった。ただし、現在のBCPは、あくまでも枠組みのみのため、今後、詳細はさらに検討していくつもりである。
- なお、当社は、2018年に当時の売上金額の倍以上であった「35億売ってハワイへ行こう!!」という目標を掲げた。社員たちがワクワクと楽しく仕事ができる環境を整えた結果、その不可能と思われた目標もわずか3年で達成することができた。

策定した内容

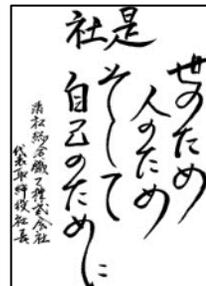
- 当社が行う鉄骨工事は災害発生後、直ぐに必要な製品やその組立であるため、災害時でも供給が円滑に進めるように、各情報は全てコンピュータで管理し、バックアップも随時行っている。社員の安全確保にも気を配っており、社員の緊急連絡にはグループラインを使用し、多くは会社の近隣に住んでいるので、何かあれば直ぐ安否確認できる状況にある。
- また、創立50周年を迎えた2017年には、記念事業として新社屋及び第5工場を新設した。第5工場は、近隣地域住民など300名が津波時等に一時避難所として利用できるよう、屋根や炊事場を設置した。さらに2018年11月には、宇佐市との間で「津波時における一時避難所としての使用に関する協定」を締結し、工場屋上を無料の一時避難所として明記するとともに、協定を踏まえた防災訓練を宇佐市が実施した際には訓練のサポートも行った。

BCP策定後の効果

- 会社・社員・取引先の生命と財産を守るという社長の思いを明文化できたことに加え、信用力向上にも繋がったと考えている。
- なお、屋根付きの屋上施設や炊事場を設置したことにより通常より建設費用が5千万円ほど余分に発生したが、当社の社として掲げている「世のため 人のため そして自己のため」を正に実践できたと考えている。



第5工場屋上



社是

活用施策

特になし

【会社概要】

企業名：清松総合鐵工株式会社
所 在：大分県宇佐市大字尾永井470-1
資本金：1,000万円
従業員数：38名
業 種：建設用・建築用金属製品製造業
企業HP：<http://www.kiss.ne.jp/>